仕事と信仰

仕事の中の偶像解決するために
悩みをシェアすることが第一歩
心の偶像になりうる６つの“欲”見つめる

Lightプロジェクト「信仰と仕事ワークショップ」(下)

各グループに分かれてディスカッション

各グループごとによる発表

グレースシティーチャーチ東京(福田真理牧師)信仰と仕事ミニストリー「Lightプロジェクト」(ディレクター＝サックス知子)の「信仰と仕事ワークショップ」聖書からの「働き方改革」シリーズ2の第2回目が9月8日、東京・新宿区の貸会議室で開催。ティモシー・ケラー著『この世界で働くということ』(いのちのことば社)5～8章をベースに、「仕事は“空の空”?」のテーマで行われた。(10月7日号の続き)

◇　◆　◇

3人のクリスチャンビジネスパーソンからの発表があった後、『この世界で働くということ』から、仕事が明らかにし、心の偶像になり得る6つの“欲”が挙げられた。

▽承認欲＝認められたい、尊敬されたい、重要だと思われたい、▽支配欲＝コントロールしたい、思い通りに物事を進めたい、▽達成欲＝何かを成し遂げたい、成功したい、▽知識欲＝知りたい、極めたい、知的好奇心を満たしたい、▽安定欲＝保証が欲しい、安心していたい、▽物欲＝欲しいものを手に入れたい、好きなものに囲まれたい。

もともと仕事は中立的で良いものだが、本来、仕事に備わっていないこれらの“欲”を求めていく中に偶像が生まれるという。

続いて5、6人のグループに分かれ、「仕事の中に現れる心の偶像は何ですか?」の問いについてディスカッションの時をもち、その後各グループから発表があった。

第1グループは「仕事をして結果を残したい、利益を出したい、感謝されたい、人として認められたいなど、仕事よりも“承認”を求めることが大きいかなと。特にクリスチャンは、クリスチャンとして認められたいという強い思いがあったりする。聖書を全部読み、祈り、教会に献身し、神様を礼拝しているはずなのに、実際は自分を認めて欲しかったのだと。また集団文化の強い日本では、自分が他の人と違うんだと思われたくない、コミュニティーの中で同化してしまうという部分が強いと思う」、第2グループでは「①仕事そのものに対する悩みをシェアすることが大事でそれが心の偶像を解決していく第一歩だ、②転職、部署異動など立場が変わると偶像をもちやすい、③職場では、みんなと違う行動をとる不安、恐怖があるが、神様の栄光を現すためには、人と違ったことをする勇気を持つべきだ」と意見を述べた。

第3グループは「6人全員で共有できたのが、『うまくいっていない時でなく、うまくいっている時にこそ神様とつながる祈りをささげることの大切さ』だった。自分がうまくいっている時は、自分の思う通りに物事を進めて支配しがち。そこでも神様への感謝の気持ちを忘れないこと」、第4グループでは「すべての欲について自分の傾向が見られる、というのが、それぞれの意見だった。つまり、純粋な思いで仕事を始めたはずなのに偶像が発生していると。裏を返せば、純粋な動機に神様の恵みもたくさんあるということだ」と感想を語った。

第5グループは「出版、金融関係、看護師など様々な職種の人がいて面白かった。印象に残ったのは、クリスチャンであるがゆえに、皆があわてふためいている時に、妙に冷静になれ、俯瞰(ふかん)的に見られるということ。それはクリスチャンの強みでもあるが、弱みにもなるという意見があった。仕事の空しさに関しては、感じる人とそうでない人の二極に分かれた。感じない人は、聖書の教え、御言葉を原点にして、それを軸に仕事を選んでいた、というのがある。何があっても軸がぶれず、偶像に走らないという強みを感じた」、第6グループは「心の偶像(6つの欲)というのは、基本的には良いものではないかという意見があった。お金がなければ生活できないし、承認されなければやりがい、生きがいは見つけられない。心の偶像は、どこまで求めて、どこから偶像になってしまうのか、という興味深い話へと発展した。バロメーターとして、健康を害するまで働く、達成感をもっと求め知識を増やそうとしている時、などが挙げられた。神様にひと言でも祈れるだけの余裕をもって働きたいと思わされた」などの意見、感想が分かち合われた。

次回のワークショップは来年1月19日、「聖書の贖いと回復」の個所から行われる。【中田　朗】